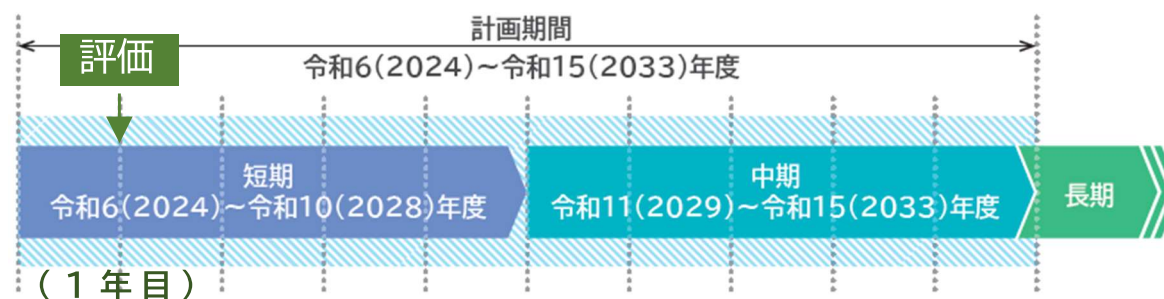


【令和6年度】

中野区地域公共交通計画（令和6年3月策定）の取組状況と評価

地方公共団体は、地域公共交通計画を作成した場合においては、毎年度、計画に定められた施策の実施状況に関する調査、分析、及び計画に定めた目標値と実績値を比較し達成状況の評価を行い、必要に応じて計画の内容を見直すこととされている。（令和2年法改正により努力義務化）上記の調査、分析及び評価を行ったときは、速やかに、その結果を主務大臣（国土交通大臣及び総務大臣）に送付する。【国土交通省HPより】

【参考】計画期間



短期：5年以内に重点的に実施する取組

中期：6～10年後を想定した取組

長期：社会的ニーズ、制度・技術の進展を踏まえ、将来的に実施を検討する取組

目標1 将来を見据えた公共交通の利便性向上（評価）

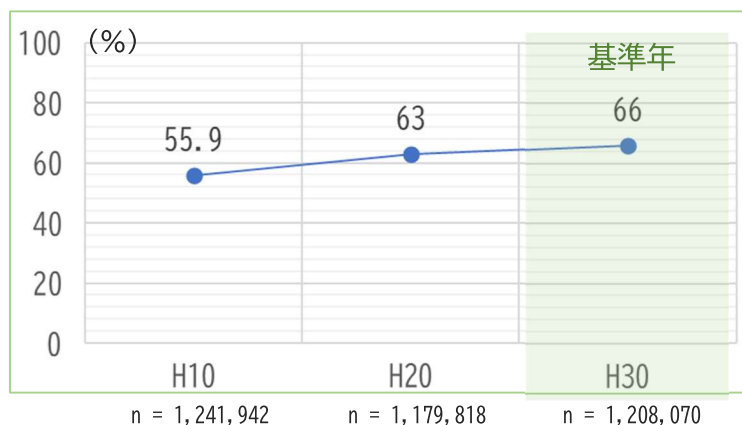
【更新時期：R10（10年に1回）】

	基準値	中間目標 令和10 (2028)年度	最終目標 令和15 (2033)年度
公共交通の分担率※26（代表交通手段）	66.0%	68.0%	—※25

基準年：平成30(2018)年 出典：第6回東京都市圏パーソントリップ調査
 参考値：平成20(2008)年_63.0%、平成10(1998)年_55.9%

※25 ー：令和15(2033)年は、出典(調査周期が概ね10年に1度)より値が取得できないため「ー」と表記する。

※26 公共交通の分担率：鉄道・バス・自転車の構成割合



■ 今回は、データ取得不可

【更新時期：R6（毎年）】

	基準値	中間目標 令和10 (2028)年度	最終目標 令和15 (2033)年度
路線バスの系統数※27	50系統	50(±5)系統	50(±5)系統

基準年：令和4(2022)年 出典：令和4(2022)年各バス事業者ウェブサイト

※27 路線バスの系統数：中野区内を運行する路線バスのうち、支線等を除いた系統数とする。また、車両配置等の運営上調整する系統が存在することから、目標値は基準値±5とし、路線バスネットワークの質の維持を確保する。

令和6(2024)年

50系統

1系統廃止、1系統新設

■ 系統数の増減はなし

(取組の状況)

取組01 路線バスネットワークの維持・拡充 P 6 9

■ バス事業者との意見交換・ヒアリング【6月～12月】

○バス部会設置の趣旨について ・中野区の路線バスに関する課題共有
 ・適切な路線バスネットワークの検討

○区内関係路線の減便や改廃の状況報告 ○区内まちづくりの進捗の共有 等

取組02 公共交通のデータ化 P 7 1

■ 公共交通サービスレベルの可視化等（更新）

■ 若宮・大和町実証運行リアルタイム情報（→）

取組03 自転車利用環境の整備 P 7 3

■ 自転車ナビラインの追加【令和6年1月】
 新井3-37 平和の森公園前交差点部60m

■ 中野南自転車駐車場の開設【令和6年4月】



取組04 シェアサイクルの推進 P 7 4

■ 公有地における3社共同ポートを3か所開設

■ 事業者との協定締結

・令和2年度：ドコモバイク・シェア
 ・令和5年度：OpenStreet Loop(自転車のみ)



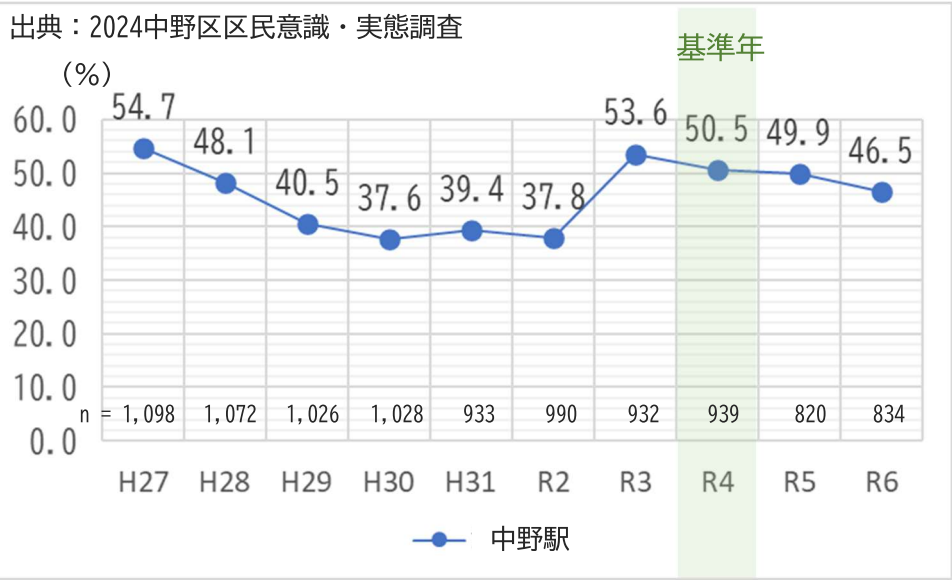
目標2 利便性の高いまちの拠点となる交通結節点の形成（評価）

【更新時期：R 6（毎年）】

	基準値	中間目標 令和10 (2028)年度	最終目標 令和15 (2033)年度
中野駅周辺利用時の満足度 (不満と感じていない人の割合)	50.5%	55.0%	65.0%

基準年：令和4(2022)年 出典：2022中野区区民意識・実態調査
参考値：令和3(2021)年_53.6%、令和2(2020)年_37.8%

○ 調査票回答者のうち、中野駅周辺を利用される方が対象



■ 基準値から4ポイント減少

- ・ 鉄道駅、駅前広場、周辺まちづくりの工事が影響していると推測される

新たな交通結節点（モビリティ・ハブ） の創出	0か所	1か所 検討	1か所 実施
---------------------------	-----	-----------	-----------

基準年：令和4(2022)年

【更新時期：R 6（毎年）】

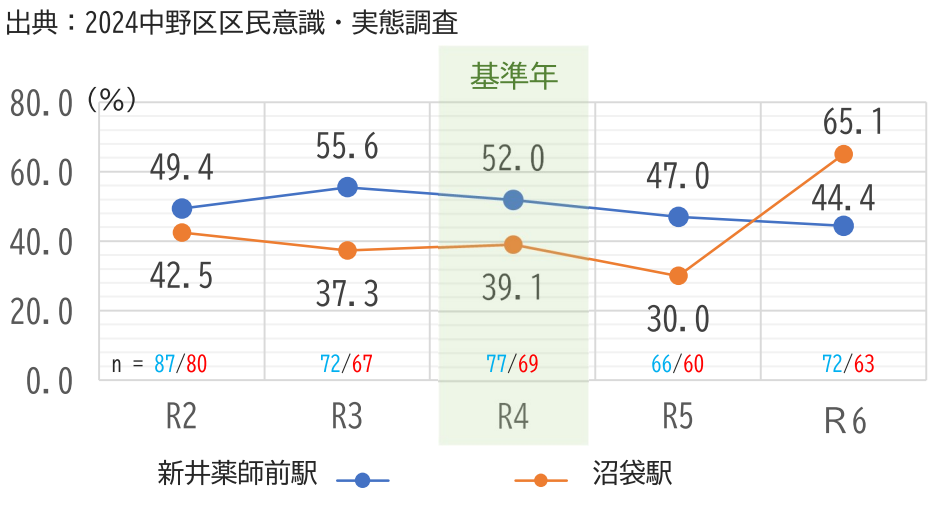
令和6(2024)年 0か所

【更新時期：R 6（毎年）】

	基準値	中間目標 令和10 (2028)年度	最終目標 令和15 (2033)年度
新井薬師前駅・沼袋駅周辺利用時の 満足度(不満と感じていない人の割合)	新51.9%・ 沼39.1%	新52.0%・ 沼40.0%	新60.0%・ 沼50.0%

基準年：令和4(2022)年 出典：2022中野区区民意識・実態調査
参考値：令和3(2021)年_新55.6%・沼37.3%、令和2(2020)年_新49.4%・沼42.5%

○ 調査票回答者のうち、新井薬師前駅（沼袋駅）周辺を利用される方が対象



■ 基準値から「新」7.6ポイント減少、「沼」35.1ポイント上昇

- ・ 「新」連続立体交差事業の工事が影響していると推測される
- ・ 「沼」連続立体交差事業の工事が影響していると推測されるが、不満の内訳件数では、「自転車と歩行者が混在し危険を感じる」等が基準年と比較し、減少している。

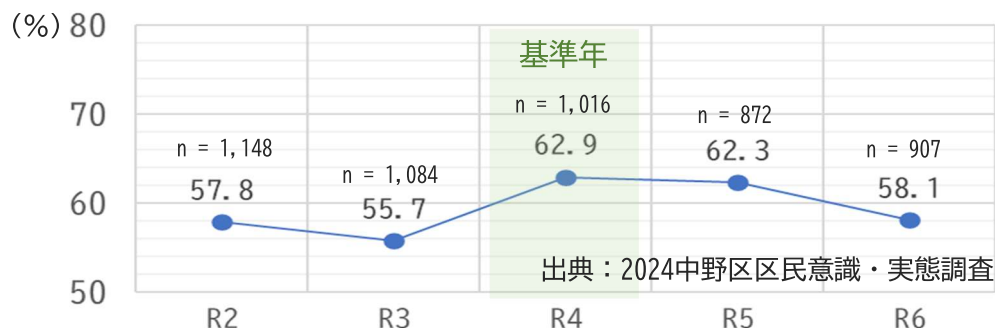
■ 候補地の検討中のため、新たな交通結節点（モビリティ・ハブ）の創出は、0か所

目標3 区民の日常生活を支える公共交通の維持・改善（評価）

【更新時期：R 6（毎年）】

	基準値	中間目標 令和10 (2028)年度	最終目標 令和15 (2033)年度
環境に配慮して、なるべく徒歩、自転車、公共交通機関を使用している割合	62.9%	70.0%	77.0%

基準年：令和4(2022)年 出典：2022中野区区民意識・実態調査
 参考値：令和3(2021)年_55.7%、令和2(2020)年_57.8%



環境に配慮して、なるべく徒歩、自転車、公共交通機関を使用している割合

■ 基準値から4.8ポイント減少

区のCO ₂ (運輸部門・自動車) の排出量	80 (千t-CO ₂)	62 (千t-CO ₂)	50 (千t-CO ₂)
-----------------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------

基準年：令和2(2020)年 出典：オール東京62 市区町村共同事業提供資料(2023年3月)
 参考値：平成27(2015)年_112千t-CO₂、平成22(2010)年_131千t-CO₂

■ 基準値から2千t-CO₂増加

(取組の状況)

取組09 モビリティ・マネジメント (MM) P 8 0

- 大和町地区まつりの参加（すごろく・ポスター掲示）【10月】
- 中野区地域公共交通マネジメント戦略の作成【3月予定】

取組10 安全な交通環境の推進 P 8 1

- 自転車安全利用講習会（主催：防災・危機管理課）【12月】
 - ・ 民間事業者による講演（電動キックボードの交通ルール等）
- 鉄道事業者の取組による混雑回避の促進
 - ・ オフピーク定期券や混雑状況の見える化等

取組11 CO₂排出を抑制する移動手段への転換 P 8 2

- なかのエコフェア2024（主催：環境課）

燃料電池バス試乗体験
 大新東株式会社

昨年につき、4回目の実施！！
 お子様を連れてご家族にも多く体験いただきました。

約570名体験

中野区 都市基盤部
交通政策課

⑭ 公共交通と環境のつながり
 ～公共交通の特徴を考えよう～

初出展

約350名来場

公共交通と環境のつながり
 ～公共交通の特徴を考えよう～

大判のすごろくを使用しゴールを目指しながら、公共交通のメリットを体感してもらいました。また、ポスター掲示にて公共交通の特徴を分かりやすく解説しました。

目標4 区民の快適な移動と回遊の確保（評価）

	基準値	中間目標 令和10 (2028)年度	最終目標 令和15 (2033)年度
公共交通のサービス圏域(レベル2以上)	96.0%	96.5%	97.0%

基準年：令和4(2022)年（鉄道駅は令和元(2019)年のデータを使用） 出典：本計画第3章

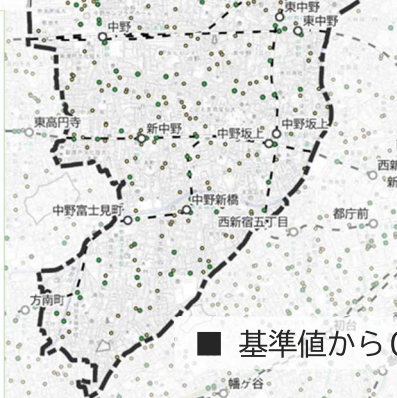
令和5(2023)年	95.6%
------------	-------



(参考)若宮・大和町地域の実証運行を含めた場合 97.3%



基準年



■ 基準値から0.4ポイント減少

新たな公共交通サービス・新技術の活用に関する実証実験（実証運行）の実施	1事業	累計2事業	累計3事業
-------------------------------------	-----	-------	-------

基準年：令和4(2022)年

令和6(2024)年

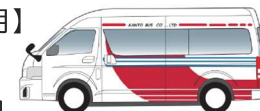
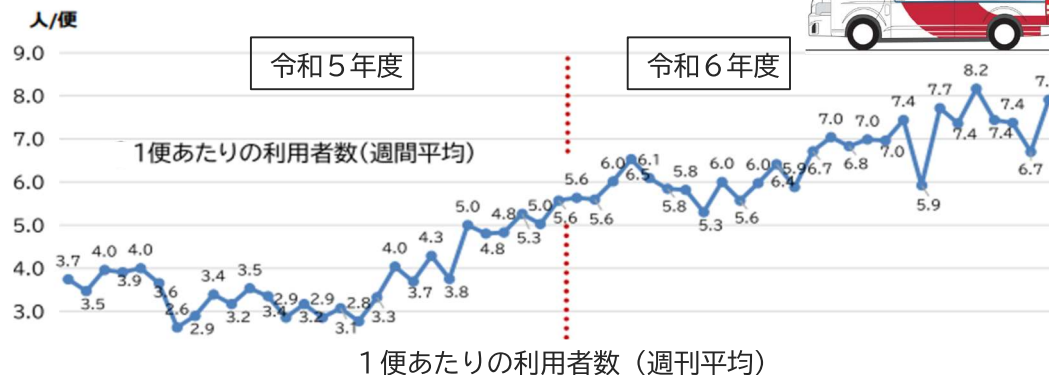
1事業

■ 若宮・大和町地域の実証運行

(取組の状況)

取組12 新たな公共交通サービス導入検討 P84

■ 若宮・大和町地域の実証運行【令和6年4月～令和7年3月】



取組13 新技術を活用した移動の活性化 P85

■ M a a S の検討【令和6年度下半期】

- ・中野区地域公共交通マネジメント戦略
(参照)

■ なかのエコフェア ブース出展【11月】

- ・ 電動サイクル・スローモビリティの試乗



Open Street 株式会社

(交通政策課 共同)

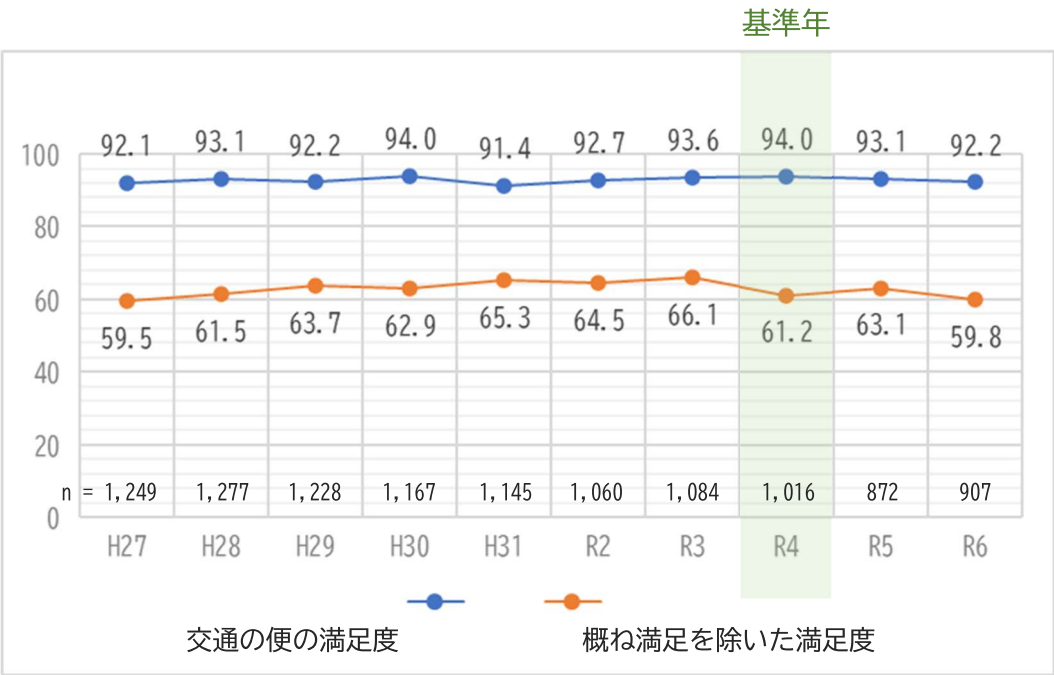
⑧ HELLO CYCLING

全体（評価）

	基準値	中間目標 令和10 (2028)年度	最終目標 令和15 (2033)年度
交通の便の満足度※24。 (概ね満足を除いた満足度※24)	94.0%・ (61.2%)	94.5%・ (68.0%)	95.0%・ (70.0%)

基準年：令和4(2022)年 出典：2022中野区区民意識・実態調査
参考値：令和3(2021)年_93.6%・66.1%、令和2(2020)年_92.7%・64.5%

※24 交通の便の満足度・概ね満足を除いた満足度：交通の便の満足度は、交通の便について「よい・どちらかといえばよい」を合計した回答率を示し、概ね満足を除いた回答率は、「よい」のみの回答率を示す。



出典：2024中野区区民意識・実態調査

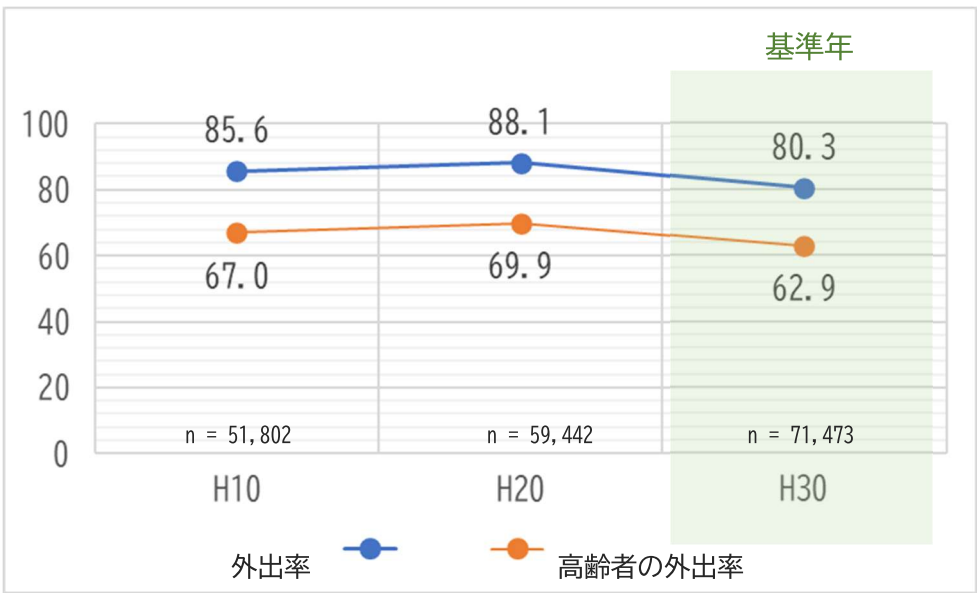
■ 基準値から「交通の便の満足度（青線）」1.8ポイント減少、
「概ね満足を除いた満足度（赤線）」1.4ポイント減少

全体（評価）

	基準値	中間目標 令和10 (2028)年度	最終目標 令和15 (2033)年度
外出率・ (高齢者の外出率)	80.3%・ (62.9%)	85.0%・ (65.0%)	—※25

基準年：平成30(2018)年 出典：第6回東京都市圏パーソントリップ調査
参考値：平成20(2008)年_88.1%・69.9%、平成10(1998)年_85.6%・67.0%

※25 —：令和15(2033)年は、出典(調査周期が概ね10年に1度)より値が取得できないため「—」と表記する。



■ 今回は、データ取得不可

□ 目標1 将来を見据えた公共交通の利便性向上

- 目標1では、部会設置に向けたバス事業者へのヒアリングや一部路線でのリアルタイムデータの整備、シェアサイクル事業の促進等、公共交通の利便性向上に係る取組を行った。評価指標については、路線バスの系統数が維持されたが、今後も公共交通の利用促進に向け、施策を推進していく。

□ 目標2 利便性の高いまちの拠点となる交通結節点の形成

- 目標2では、中野駅周辺や西武新宿線沿線まちづくりに伴う工事の影響により、評価指標である「駅周辺利用時の満足度」が下がる傾向にあるが、供用開始後の指標を見据え、引き続き関係主体と適切な調整を図り、交通環境の整備を進めていく。

□ 目標3 区民の日常生活を支える公共交通の維持・改善

- 目標3では、モビリティ・マネジメントの一環で、公共交通のメリットをイベントの場等を活用し、多くの来場者へ発信した。評価指標である「環境に配慮して、なるべく徒歩、自転車、公共交通機関を使用している割合」は基準年から減少し、区のCO₂（自動車）の排出量は増加した。取組の効果が見られるまで、時間を要するため、今後も引き続き事業を推進し、指標を観測していく。

□ 目標4 区民の快適な移動と回遊の確保

- 目標4では、モデル地域で実施中の若宮・大和町の実証運行の利用者数が増加傾向であり、引き続き運行を継続していくことが決まった。またシェアサイクルの普及も重なり、評価指標の公共交通サービスレベル2以上の地域が広がった箇所もあるが、鉄道の乗降客数減少等の影響により、全体として0.4ポイント減少した。

■ 全体の評価

- 中野区地域公共交通計画の実施1年目として、掲げた施策を計画的に推進した。一方、取組の効果が見られるまで時間を要する施策もあり、各評価指標は全体的に横ばい、一部下がっていることが確認された。そのため、今後も引き続き事業を推進し、評価指標を基にデータを注視しながら必要に応じ、取組内容等を改善していく。